

平成28年度 校内研修計画

甲州市立大和中学校

1. 学校課題

これからの「知識基盤社会」の時代において「生きる力」の育成がますます重要になってきており、「基礎的な知識・技能を身につけること」「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むこと」「学習に取り組む意欲を養うこと」が教育指導の方向性として示されている。また「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」においても、思考力、判断力、表現力の育成をはじめとする学習活動の課題を洗い出し、本市児童生徒の確かな学力の定着・向上を図っている。

このような経緯に沿って、昨年度は「伝えあう力」を育てるために取り組みを行ってきた。「聞くこと」と「話すこと」の双方向を強化することから理解が深まると考え、「聞く・話す」力の育成に重点をおいて研究を進めた。しかし、小学校からの狭い人間関係の中、必要最低限の表現で自分の考えが伝わってしまう環境のため、自分の考えを十分に表現できているとは言えない状況である。学習に対する質問を聞く時間を「大和タイム」とし、表現する実践の場を設定したが、自分の考えを表現するためには課題がみられる。また、学校評価アンケートの結果から、家庭学習の取り組みに大きな課題がみられる。ゲームやテレビ、インターネット等の時間が多く、家庭での学習時間が極端に少ないという結果が出ている。

自分の考えを十分に表現するためには、知識に裏付けされた自信が必要であると考えた。家庭学習の取り組みを定着していくことから自身をつけ、自分の考えを表現できるように研究を進めていきたいと考えている。

2. 研究主題

主題 「生きる力の育成」(研究の目的)

副主題 ～家庭学習の習慣化から基礎基本の定着を図り、自らの考えを表現する力の育成～

3. 主題設定の理由

昨年度の研究により、「聞くこと」・「話すこと」を強化することにより「伝えあう力」の育成を図ってきた。そのため、「大和タイム」という時間を設けて学習の疑問を解決する取り組みを行ったが、自分の考えを十分に表現することができなかった。また、学校評価の結果から、家庭学習に対する取り組みにも課題があるため、毎日の帰りの会の時間を使って、その日に家庭で学習することを決める取り組みを行ったところ、少しずつ成果が現れた。

このような経緯から、家庭学習の定着を図り基礎基本が定着することで、自身をもって自らの考えを他者へ伝えることができるのではないかと仮説を立てた。小規模校という特徴を生かすことで、個に応じたきめ細かい指導が可能である。そのため、「大和タイム」を「大和プロジェクト」と改め、生徒一人一人の到達度に合わせた目標を設定し、学習状況をしっかりと把握することで家庭学習を定着しようと考えた。また、帰りの会の後に「振り返りの時間」を設け、家庭学習の状況を確認することと、週3回の朝学習の時間で、学習の疑問を生徒同士で話し合っ解決していくことで、自らの考えを表現する力が身につくと考えた。

また、勝沼中学校との交流や、信玄公祭り、勝頼公祭りなどの地域行事にも積極的に参加し、多くの人とコミュニケーションする場を設定することで、自分の考えを表現する力が育成されると考えた。

4. 研究の具体的内容与方法

(1) 学級づくり・集団づくり

① Q-U 検査の実施及び K-13 法による分析 ② アタックシートの活用 ③ 視野を広げる活動

(2) 授業づくり・授業改善

① 一人一実践の授業研究 ② 学習の手引の活用

(3) 学習意欲・基礎学力の向上

① 大和プロジェクトの設置と活用 ② 外部講師による講演 ③ 各種学力調査への取り組み

④ テスト前学習会の充実及び一斉学活等で勉強の仕方について意見を交換する。

(4) 地域・保護者との連携

① 授業参観 ② 家庭学習の強化

年間校内研究計画

研究主任 駒井隆浩

研究テーマ	教科	単元・領域 等	授業者	学年	授業の時期	T・C要請
『生きる力の育成から基礎基本の定着を図り、自らの考えを表現する力の育成』 家庭学習の習慣化	社会	江戸時代	前島香織	2	11月	
	数学	一次関数	筒井弘	2	10月	
	音楽	荒城の月	富田照也	2	10月	
	理科	物質の溶解と物質の粒子	駒井隆浩	1	10月	○
	家庭	幼児の生活	石田周子	2	11月	
	体育	ソフトボール	小石澤重人	2, 3	11月	
	道徳	生命の尊重	鮎澤智美	1～3	10月	